

日出町は、県外在住者向けに無料の地元アピール雑誌「ひじん本～第1集～」を発行しました。

# 住んで幸せ「ひじん本」

日出町は、県外在住者向けに無料の地元アピール雑誌「ひじん本～第1集～」(B5判、64頁)を発行しました。町に住む人々の暮らしや風土などの魅力を記事や写真で紹介。町が推進する人口3万人政策に追い風を吹かせ、定住人口増につなげようと作った。

「ひじん本～第1集～」を発行した町政策推進課の職員ら



## 人柄や風土など紹介

(人件費込み)。  
コンセプトは「派手じゃないけど、おおらかでのびのびとした町民の幸せぶりで初めて分かる温かな人柄や古き良き伝統などにスポットを当て、読者に「住んでみたい」と思ってもらえる構成を目指したという。今回は、町内各地で弘法大師を「お」ほ様」と敬い、子どもたちが菓子をもらい歩く「お接待」の風習や、古くから町民が恩恵を受けた「湧き水」などを特集。この他、子育て環境の充実や交通の便に優れた立地環境の良さなども紹介している。

編集は、町の緊急雇用対策事業で採用した臨時職員の女性2人と、町政策推進課の職員らが担当した。本年度中に全3集(各5千部)を発行する計画。県外各地で開かれるI・Uターンの説明会場の他、空港などで県内在住希望者に配布し、町で暮らす魅力を紹介していく。事業費は7000万円

集を手掛けたデザイナーの臨時職員大熊博美さん(42)は「町民の豊かな表情を組み込んだ他、イラストも多用して読みやすいように仕上げました。大分を離れた知り合いや家族にもぜひひつてほしいです」と話している。問い合わせは同課(☎ 0977・73・3116)へ。

(2013年8月24日朝刊13面)

①「Iターン」「Uターン」とは、どういうことでしょう。

②日出町が増やそうとしている「定住人口」とは、どういう人口でしょう。

③自分たちの地域で同じような雑誌をつくるとしたら、何をアピールしますか。考えてみよう。